

12月1日は世界エイズデー

## 2019年世界エイズデーキャンペーン

テーマ「UPDATE! 話そう、HIV/エイズのとなりで  
～検査・治療・支援～」

2019年は、岐阜市内外の中学、高校、大学、専門学校11校がレッドリボンフラッグ作成にご参加いただきました。それぞれの思いが込められたフラッグとメッセージをご紹介します。

レッドリボンフラッグは、11月15日～12月10日まで、神田町5丁目と6丁目の交差点付近に展示しました。



### 〈藍川北中学校〉

世界各国で多くの方がエイズの誤った知識による差別、偏見で苦しんでいます。そんな「エイズの正しい知識を知ってもらいたい」という強い気持ちをデモという形で表しました。世界の人々がエイズのことを正しく認識し、一人一人が考えていくべき、寄り添っていくべき問題なのだととらえてもらいたいです。私たちがまずエイズについて正しく理解し、周りの人々に広めていくことでエイズに関わる差別、偏見がなくなること願っています。



### 〈厚見中学校〉

「UPDATE!話そう、HIV/エイズのとなりで ～検査・治療・支援～」今年度のテーマを受けて、なかなか浸透していかない現状にあることや知識の無さを痛感したこと。また3年生が東京のHIV/エイズの人権施設を訪問し、日常生活の中でつくられたマイナスイメージから病気に対する恐怖心や知識の無さ、いじめなどに傷つきながらそれと戦い偏見や差別を無くすために生きていることを学習したこと。日本中のひとりひとりが支えていくことの大切さや認識の必要性が感染している人のいち早い治療につながることを願って、その思いをデザインし、1年生が作ったレッドリボンをつけて完成したレッドリボンフラッグです。



### 〈長森南中学校〉

エイズへの感染者の人達への偏見やいじめは減ってはいるけれど、まだ完璧に無くなったわけではありません。まだいじめや偏見と闘っている人、エイズの病気と闘っている人がいます。その人たち一人一人へエールをこめて花束にしました。エイズの人への偏見やいじめがなくなることを願っています。



### 〈梅林中学校〉

HIVに感染しても早目に治療を受けることによって、エイズの発症を遅らせることができるようになりました。また、エイズは普通の生活でうつることはありません。それなのに今でもいじめや差別にあい、つらい思いをしている人がいます。そんな人達にやさしい気持ちで接しようという思いをハートで表しました。誰もが、どんな人に対しても偏見をもたず、差別がない世界にしたいという気持ちを込めました。



### 〈岐阜聖徳学園大学 附属中学校〉

私たちの学校では、宗教委員と茶華道部が呼びかけを行い、全校生徒にレッドリボンにメッセージを書いてもらいました。HIV感染者やエイズ患者の方々への偏見や差別をなくしていくには、世界中の一人ひとりがエイズについて正しい知識を持って、少しでも多くの方が支えていくことが大切だと思います。そんな思いを散りばめたたくさんのハートやリボン、そして繋いだ大きな手にこめました。



### 〈済美高等学校〉

エイズを通してエイズ患者・感染者に対する差別や偏見がなくなるようにまた元気や勇気を与えられたと思い作成しました。そして、すべての人々が楽しく、笑顔で平和に過ごせるようにと願いをこめました。

### 〈岐阜市立女子短期大学〉

エイズについて、またその検査・治療法に関してより多くの人に正しい知識が浸透し、その症状や誤解に苦しむ人が少しでも減ればという思いを込めました。去年のフラッグと同じように人が二人並んでいます、背が伸びていたり、心(ハート)を持っていたりと所々成長しています。





### 〈岐阜県立衛生専門学校〉

レッドリボン（赤いリボン）はエイズへの理解と支援の象徴であり、エイズとともに生きる人々に元気と勇気を届けたいという思いを込めて制作しました。まだまだエイズに対する偏見や誤った知識が浸透しているため差別がなくなるきっかけになってほしいと思い、学校全体で一人ひとりの思いをリボンに記しました。

### 〈岐阜市医師会看護学校〉

エイズの正しい知識を身につけ、手を取り合っただけの人が豊かな生活を送れるように支援をしていきたい。私達看護学生はその使命を志すの証しとしてこのフラッグを作成しました。

### 〈岐阜市立看護専門学校〉

みんなで手を取り合っただけエイズ患者を支えていこうという気持ちを表現しました。エイズへの関心を持ち、差別や偏見が減ってほしいという願いを込めて制作しました。

### 〈岐阜県立看護大学ピアサークル〉

エイズに対して偏見を持っていたり、エイズとともに生きる人々への差別をしたりするというエイズへの誤解された見方はまだまだ残っています。そのような考え方がなくなるよう、正しい知識が広まり皆が思いやりをもって生活をしていけるようになってほしいという思いを込めて制作しました。このフラッグを見て少しでも多くの人々がエイズに関心をもってほしいと思います。

